

第2学年 道徳学習指導案

日時 平成24年11月13日(火) 4校時

児童 沼宮内小学校 2年1組 男12名 女11名 計23名
水堀小学校 2年 男4名 女4名 計8名
合計31名

指導者 T1 川村喜代子(沼宮内小学校)

T2 多田 浩(水堀小学校)

ファミリースクール研究主題

『小・中学校連携による確かな学力の育成』

～小・中学校で共通の課題をもち、同一方向を見据えた指導を通して～

【研究主題に関わって】

授業改善を目指して重点として取り組むこと

- ①自分の思いを素直に表現することができる児童・生徒の育成
- ②道徳的価値の自覚を深めさせるための教師の発問の工夫
- ③発達段階に応じた指導のあり方

- 1 主題名 しっかりやろうね(勤勉・努力) 1-(2)
(資料名 「書き方の時間のこと」 出展「学研 みんなのどうとく 2年」)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本時の主題である「勤勉・努力」に関して、学習指導要領の第1学年及び第2学年の内容では、「1 主として自分自身に関すること」の(2)に「自分がやらなければならない勉強や仕事をしっかりと行う」と示されている。勤勉に、くじけず努力し、自分を向上させる児童を育てようとする内容項目である。

児童が自立し、よりよく生きていくためには、自分がやらなければならないことはしっかりとやり抜くことが大切である。そこには、何事にも粘り強く取り組み、努力し続ける忍耐力も求められる。そして、よりよくなろうとする自分を感じ、自己を肯定的に受け止められることができたとき、「生きる力」になると考える。

(2) ねらいに関わる児童の実態について

沼宮内小の2年生児童は、明るく活発で話をよく聞き、自分がしなくてはならないことを素直な気持ちで受け入れ、与えられた課題は最後までやり遂げようとする。係の仕事や清掃活動でも、意欲的にきびきびと働いている。しかし、「早く終わらせたい」「面倒である」との気持ちから、丁寧に仕上げなかったり、集中力が持続せずじりじりと進めたりしてしまうことがある。そのために、時間をかけた割には成果があがらなかったり、充実感や達成感を得られなかったりしたまま、やり終えてしまう様子も見られる。

水堀小の2年生児童は、日常の勉強や仕事にまじめに取り組むことができる。特に、係の仕事は責任をもって行い、みんなで声をかけ合いながら自分の役割を果たしている。しかし、その意義や大切さを本当に理解している児童は限られており、「友達がやっているから(勉強や仕事を)自分もやる」と考える児童も多い。そのため、マラソンや鉄棒、書き方など、自分が不得意なことになると初めからあきらめてしまい、意欲的に取り組むことができない。また、友達に間違いを指摘されると固まってしまうたり泣いたりして、進んで取り組むことができない児童もいる。さらに、たえず声をかけないとぼんやりしてしまい、自分がすべきことがわからずに、友達に助けられている児童もいる。

このような粘り強さの欠如は、沼宮内中学校区の特徴として、ファミリースクールの実態調査の結果にもあらわれている。このような児童に、自分でやらなければならない仕事や勉強などは、

しっかりとやり通そうとする気持ちを育てたい。

(3) 資料について

本資料は、日常の授業時間のできごとを題材としている。書き方の時間の課題に取り組みながら、つい気持ちがそれてしまう「ともくん」の心の動きは、どの児童にも思い当たるものである。資料では、励ましをきっかけとして、「ともくん」が新たな気持ちで課題に向かい合う様子を描いている。自らの課題にじっくりと向き合っ取り組むことをとおして、自分のよさが現れる喜びを感じさせ、やらなければならないことはしっかりとやりとおそうとする気持ちを育てていくのに適した資料であると考えられる。

(4) 指導にあたって

低学年の段階は、やらなければならないことを素直に受け入れることが多いため、教師や親、友達の励ましや賞賛、助言などの下に、この時期の基本的な課題である勉強や仕事を自分でやるべきこととしてしっかりと行うことができるように指導する必要がある。そして、やり遂げたときの喜びや充実感を味わい、「がんばることができた自分を好きになる」気持ちにさせることが大切である。そのため、資料の中の「これがともくんの字ですね。」という先生の言葉に着目して考えさせていきたい。

沼宮内小と水堀小の児童は6月と9月の交流学习を経験した上で、今回一緒に授業を行う。水堀小の児童8人が沼宮内小の23人の中に入っても、自分の考えをもち、それを表現することができるように、T1・T2の役割について工夫していきたい。そして、学習をとおして深まった自分の思いを整理し、明日への意欲につなげるための書く活動を取り入れたいと考える。

終末では、集中して勉強や仕事に取り組み、しっかりとやり遂げている児童を沼宮内小、水堀小それぞれの教師から紹介するようにしたい。そして、沼宮内小、水堀小の互いのよさを認め合うことにより、さらに交流が深まるようにしたい。

3 本時の指導

(1) ねらい

たとえ気がのらない勉強や仕事であっても、一生懸命に取り組むことの大切さと、その作業をやり終えた後の達成感と喜びに気付かせ、しっかりと行うことのできる自分を好きになる。

(2) 研究との関連

①自分の思いを素直に表現することができる児童・生徒の育成

・自分たちが硬筆課題に取り組んだ体験とそのときの気持ちについて想起させ、活発に発表できるようにする。

②道徳的価値の自覚を深めさせるための教師の発問の工夫

・「この字はともくんの字ではないわね。」「いい字ですねえ。これがともくんの字ですね。」という先生の言葉に着目させて、しっかりと取り組んだ成果が自分のよさにつながることに気付かせ、一生懸命にやってよかったという価値の自覚を促すようにする。

③発達段階に応じた指導のあり方

・T2が資料の音読と板書を担当することで、水堀小の児童が発言に意欲をもてるようにする。
・書く活動を取り入れることで学習をまとめ、今後の自分のあり方について考えられるようにする。

(3) 展開 (◎中心発問 ○基本発問)

邊	学習活動と主な発問	予想される児童の心の動き	指導上の留意点
導入 10分	1 学校の勉強で頑張ったことを話し合う。 ○学校の勉強で、一生懸命に頑張ったことを思い出しましょう。	・計算練習を頑張った。 ・漢字練習に取り組んだ。 ・硬筆練習を頑張って、上手に書いた。	・硬筆練習に取り組んだ時のことを想起させ、資料への導入とする。

<p>展開</p> <p>30分</p>	<p>2 資料「書き方の時間のこと」を読み、ともくんの気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料を読む。 <p>○校庭の様子に気をとられているときのともくんはどんな気持ちでしたか。</p> <p>○「この字は、ともくんの字ではないわね。」と先生から言われたとき、ともくんはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>◎「いい字ですねえ。これがともくんの字ですね。」とほめられたとき、ともくんはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>3 自分がしっかりと行ったときのことを考える。</p> <p>○大変だなと思ってもしっかりと行ったときの自分をほめましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> いいなあ。ぼくも遊びたいな。 早く終わりたいな。 丁寧に書くのはめんどろだな。 ぼくの字ではないって、どうことだろう。ぼくが書いたのに。 字が丁寧じゃなかったからだ。 先生はなんでわかったんだろう。 一生懸命やらなきゃいけないな。 お手本をよく見て書いてよかった。 頑張れば、いい字が書けるんだな。 やっぱり、ちゃんとやらなきゃいけないな。 ぼくも、こうひつをがんばって書いたらきれいにできた。 つかれたけど、いっしょうけんめいやってえらかったね。 とちゅうでやめたくなかったけど、つづけてがんばってよかったね。 	<ul style="list-style-type: none"> T2が資料を音読する。 (研究との関連③) 児童の感想から、本時は「ともくんの字」に着目して考えていくことをおさえて進める。 T2が板書を担当する。 (研究との関連③) 自分が書いたのに「ともくんの字ではない」というのはどういうことか考えさせる。 (研究との関連②) ともくんの気持ちとして考えさせながら、「自分もそうだった」という気持ちに思い至るようにさせる。 (研究との関連①) 「いい字」とは、精一杯行った結果の、その子なりの成果であることをおさえる。 (研究との関連②) 様子を見て、T2からも児童に指名をする。 今までの自分の頑張りをプリントに書く活動を通して、これからの自分の望ましい姿をとらえられるようにする。 (研究との関連③) 頑張ってやりとおした結果、どんな気持ちであったかをとらえさせ、そのときの自分を認め、これからもそうありたいと願えるようにする。
<p>終末</p> <p>5分</p>	<p>4 学級の中でものごとにしっかりと取り組んでいる児童を、沼宮内小・水堀小それぞれの教師が紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 沼宮内小、水堀小のどちらにも、頑張っている人がいるんだな。 ぼくもこれからもしっかりとやっっていこう。 	<ul style="list-style-type: none"> 目立たなくても、頑張ったことは人に認められているということに気付かせ、今後の意欲につなげる。

(4) 評価

- ・「ともくん」の心の動きに共感しながら自分の考えを深め、やらなければならないことをしっかりとやりとおそうとする気持ちを育てることができたか。
- ・しっかりとできた自分のよさをほめる文を書くことができたか。

(5) 板書計画